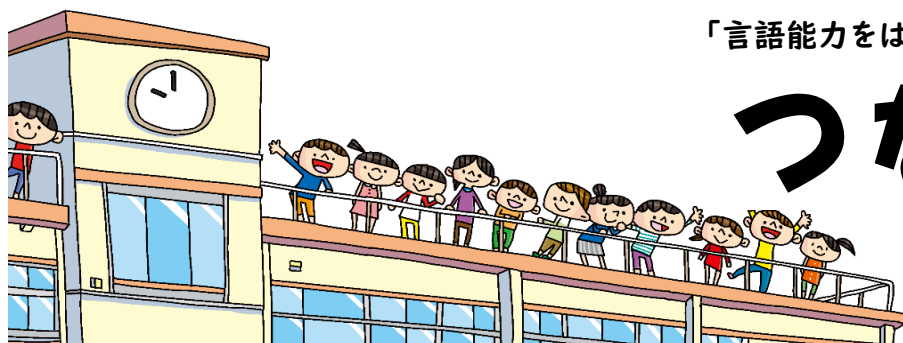




「言語能力をはぐくむモデル校」SE 通信

つながい

7月号

各学年の取り組み(高学年)



4年生「白いぼうし」



『白いぼうし』の作者であるあまんきみこさんの関連作品5編『すずかけ通り三丁目』『山ねこ、おこわり』『春のお客さん』『とにかくよかった』『きょうの空より青いシャツ』を並行読書として取り組み、物語の複数の場面を関連付けて不思議な面白さを読み解きました。読み解いた“不思議”を根拠

となる文章を引用しながら「ふしぎのとびら」を作成し、友だちと互いの思いを伝え合う対話を通じて、物語の解釈をより豊かに広げました。

友だちとの悩みを抱える主人公が、周囲の人物との関わりや言葉の力によって、物事の明るい側面（銀色の裏地）に気づき、前向きに歩み出す物語を学習しました。物語の構造を深く理解するために人物相関図を作成し、自分自身の心の動きや経験と重ね合わせながら読書レビューを執筆しました。



5年生「銀色の裏地」



6年生「帰り道」



「視点のスイッチ」をテーマに、律と周也それぞれの視点から物語を読み解く言語活動に取り組みました。同じ場面でも、それぞれの内面から見える景色や感情のズレ、そして叙述に隠された真実を注意深く読み解くことで、作品の解釈を深めました。

この発見を「二人の心がつながる瞬間」として他者に伝えるべく、「読書推薦シート」を作成し、自分が感じた物語の魅力を、相手にしっかり伝わるよう、言葉を一つ一つ吟味しながら、納得のいく紹介文に仕上げました。



5年生が執筆した読書レビューと、6年生が作成した読書推薦シートは学校図書館前に掲示しました。物語の魅力を全校児童と分かち合う場とすることで、自分たちの学びを他者へ発信する充実した機会となりました。

